



学校通信

令和8年 1月 8日
東京都立葛飾盲学校長
竹内 大吾
(第9号)

「千里の道も一歩から」

校長 竹内 大吾

年明けの澄んだ空気とともに、新たな一年が始まりました。新年、明けましておめでとうございます。

昨年は、本校の教育について、たくさんの御支援、御協力をいただき、ありがとうございました。本校幼児・児童・生徒、保護者、地域の皆様の益々の御健勝と御多幸を心よりお祈り申し上げます。

新年といえば、「一年の計は元旦にあり」という言葉があります。この言葉の由来は諸説ありますが、戦国時代の武将が、「一年の計は春にあり（一年の計画は新しい年に立てるべきである）、一月の計は朔（ついたち）にあり（一月の計画は月初めに立てるべきである）、一日の計は鶏鳴（けいめい）にあり（一日の計画は一番鶏が鳴く朝に立てるべきである）」という言葉を残し、そこに由来したとも言われています。つまり、物事は、初めが最も大切で、物事を始めるには、最初に計画をしっかりと立てておくべきだということになります。

さて、令和8年は、午年（うまどし）になります。午年は、馬をモチーフとし、力強い前進や成功、開運を象徴し、何事もうまくいく、縁起の良い年とされており、自分で、目標をたてて何かにチャレンジしていくには、良い年かと思われます。

目標と馬にちなんだ故事成語として、「志在千里（しざいせんり）」という言葉があります。こちらは、三国志で有名な中国の武将の言葉で、年老いた馬であっても千里（約3,972km）を走る夢をもつという、いつまでも大きな目標をもち続けることの大切さを説いた言葉です。

現代は、A I（人工知能）の台頭等に象徴される急速な科学技術の進歩により「予測困難な時代」といわれており、誰もが将来に向けての目標をもちにくいともいわれています。一方、そのような時代だからこそ、A Iにとって代われないような、感情や共感の理解といった心を交わしたコミュニケーションの力、自分自身のために目標をたてる力、価値判断をきちんとできる力、新しい価値を創出する力等を育むことが、大切になってきます。

本校の幼児・児童・生徒たちも、予測困難な時代であっても、将来、人と人との関わって生活する社会で生きていくことは変わらないことであり、このような力を付けていくことは大事になります。将来を見据えてというのは、遠い目標でありイメージすることがなかなか難しいことなのですが、まずは身近な目標から、計画的にひとつひとつ積み重ねていくことが大事になります。まさに、「千里の道も一歩から」ではないでしょうか。

今年も、保護者の皆様におかれましては、ともに子供たちの成長を見守り、支えていただければ幸いです。引き続きの御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。